



『奇譚の街』

5月14日
光文社文庫で
発売予定!

浅見家のお手伝い・吉田須美子が活躍する、内田康夫財団法人「須美ちゃんは名探偵!? 浅見光彦シリーズ番外」。**第4弾**は今年生誕90年を迎える内田康夫が生まれ、そして名探偵・浅見光彦が住む街、**東京都北区を舞台にした長編ミステリー**です!

第1章

空飛ぶハサミ



第2章

牛蒡モチのある街



第3章

北区で一番大きな剣



～ あらすじ ～

東京都北区にある警察庁刑事局長の家で住み込みのお手伝いをしている吉田須美子。

ある日、いつものように、近くの商店街で買い物をしていた須美子は「牛蒡モチ」と書かれたメモを拾う。落とし主に返せないまま、友人で花屋を営む小松原育代のもとを訪ねると、「空飛ぶハサミ」という都市伝説を耳にし、その正体を推理することに――。

さらに翌日、「ねえ、須美ちゃん『友汐』ってなんだと思う?」。育代は近所に住む小学生が書いていたという奇妙な言葉に悩んでいた。その意味に気づき謎を解明した須美子は、例のメモの落とし主の女性と邂逅する。育代が「須美ちゃんは名探偵なのよ」と紹介すると、彼女は「北区で一番大きな剣を探してほしい」と依頼。自分は名探偵なんかではないと言う須美子だが、落胆する彼女を放っておかず、話を聞くことになった。

「形の変わる島」、「死神と呼ばれた少年」……。名探偵・浅見光彦の言葉をヒントに、須美子は北の街・北区で起こった、ある不思議な物語の謎をひもといてゆく――。

第4章

形の変わる島



第5章

死神と名探偵



内田康夫90th特別収録

「軽井沢のセンセ失踪事件」

ある朝、浅見光彦のもとに、軽井沢のセンセから助けを求める電話がかかってきた。浅見は犯人の指示に従い、横浜の街を駆け巡り、センセの行方を追うが、事件は意外な結末を迎える。

☆2011年に実施したイベント「横浜ミステリー Walk ～軽井沢のセンセ失踪事件」(主催：KADOKAWAグループ／監修：浅見光彦倶楽部) で使用したストーリーを、『奇譚の街 須美ちゃんは名探偵!?』に収録するにあたり、大幅に加筆・修正しました。

